

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川のはん濫

雨量の増加によってもたらされるはん濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

外水はん濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれて起きる洪水。はん濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



内水はん濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まって起きる洪水。国東市は、山間部から平地に流れ込み、短時間で水かさが増すため、早めの避難が必要。

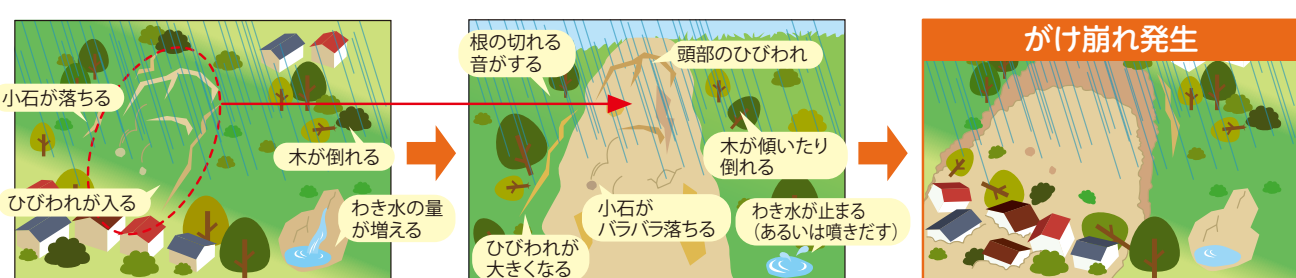


土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難所・避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

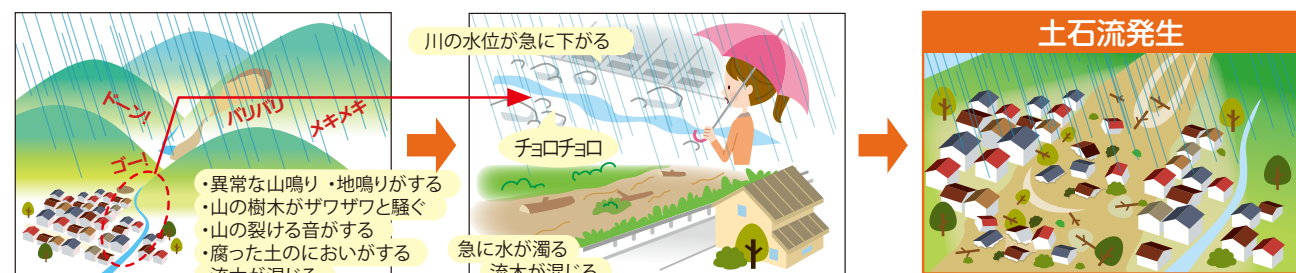
がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいと、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

ため池の決壊

大雨や地震等により決壊が発生すると、ため池の貯水機能が喪失するだけでなく下流人家等への甚大な被害が生じます。

事前放流

豪雨前にため池の水を事前に放流し水位を下げておくことで、ため池の決壊を防ぎ直下流の家屋浸水・農地災害等の被害の軽減が期待できます。



【注意事項】

- 貯水位の急激な変動は堤体に悪影響(法面崩壊等)を与えるおそれがあるため、斜樋を上から開ける等の配慮を図ってください。
- 下流の水路や河川が増水している場合は、浸水被害を助長しないように放流量を調整してください。
- 降雨が想定以下となった場合、その後の水位回復に時間を要し、営農に影響を与える恐れがあるため、用水量の確保に留意しつつ取り組んでください。

大雨注意報・警報・特別警報の発表のめやす

大雨注意報

災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報

- 表面雨量指数基準 11
- 土壌雨量指数基準 96

大雨警報

重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報

- 表面雨量指数基準 17
- 土壌雨量指数基準 124

大雨特別警報

台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に呼びかけて行う予報

・表面雨量指数基準および土壌雨量指数基準の数値は、令和3年3月16日に大分県地方気象台が発表した基準値となります。
 ・表面雨量指数は、短時間強雨による浸水リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数。
 ・土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数。

雨の強さと降り方

やや強い雨 1時間雨量 10mm以上~20mm未満	強い雨 1時間雨量 20mm以上~30mm未満	激しい雨 1時間雨量 30mm以上~50mm未満	非常に激しい雨 1時間雨量 50mm以上~80mm未満	猛烈な雨 1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~25m/秒未満	25m/秒以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

階級	風速15m/秒以上の半径	階級	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒以上~44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川のはん濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

●防災対策の事例

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

浸水してからの避難は、長靴を使うと水が入って動けなくなるから、運動靴をはいて避難してね。

